

ヤイトハタ

方言名：アーラミーバイ

学名：*Epinephelus malabaricus*



5～7cmのヤイトハタの赤ちゃん
(ふ化後約80日)



1kgサイズのヤイトハタ(養殖)



ヤイトハタの親魚(卵を産ませる親の魚;写真は体重約20kg)

スズキ目ハタ科マハタ属の魚で、インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯海域に広く分布し、日本では高知県以南で見られます。最大体重50～60kg内外に達する大型のハタで、ときどき大物が新聞の釣りコーナーを賑わせます。

平成4年(1992年)から沖縄県水産試験場八重山支場(現沖縄県水産海洋研究センター石垣支所)で種苗生産研究が開始され、平成8年(1996年)に本県では初めて生産に成功し、翌平成9年(1997年)には20万尾を越える種苗量産に世界で初めて成功しました。沖縄県の養殖魚のホープで、海面生簀や陸上水槽で養殖されています。

問い合わせ先：沖縄県栽培漁業センター TEL 0980-47-5411

URL <http://www.pref.okinawa.jp/saibai/>